



## つながりのみなとプロジェクト：未来へつなぐ「健幸」なまちづくり

市民の皆様と考える、人の流れと笑顔が生まれる賑わいのまちのデザイン

PM：目良顕隆、山川康、岡部一也 PL：大久保貴徳、篠崎道裕 SL：植村祐司、畑健太郎

# ウェルビーイング：健康で幸せを感じられる当たり前の日常をデザイン



## Wellness x Well-being:

単なる「健康」だけでなく、自己幸福感を感じられる「健幸」な暮らし。



## Walkable City:

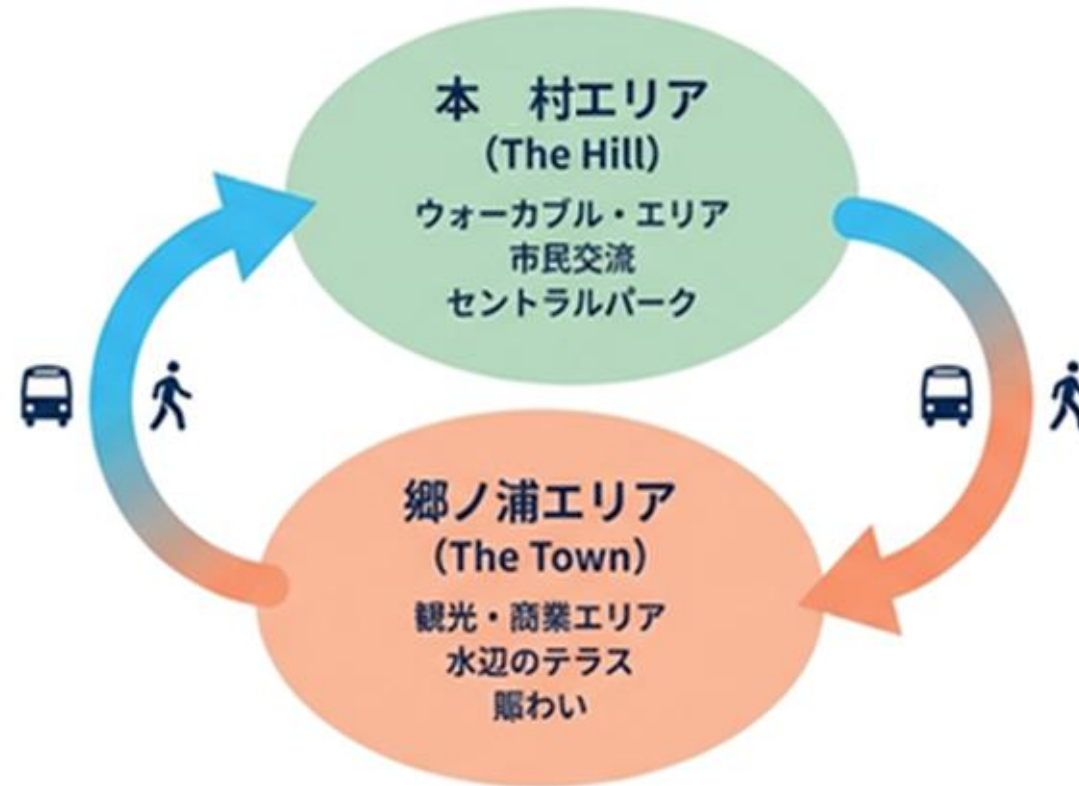
車中心から、「歩いて楽しい」「何となくふれあえる」空間への転換。



## Goal:

誰もが安心安全で、豊かな生活を営める「幸福の土台」をつくります。

# 「丘（本村エリア）」と「まち（郷ノ浦エリア）」をつなぐ、新しい人の流れ



性格の異なる2つのエリアをつなぎ、回遊性（ウォーカブル）を高めることで、まち全体に活気を生み出します。

## 郷ノ浦エリア：商店街に「賑わい」を取り戻す



### ● チャレンジショップなど

チャレンジショップスペースを確保するなど、若い世代や観光客等をターゲットとした、飲食やアパレルなど様々なジャンルの店舗がポップアップで挑戦できる仕掛けを構築。

## 本村エリア：多世代が集う「セントラルパーク」構想

**Concept:** 子どもからお年寄りまで、誰もが「何となく集まり、ふれあえる」大きな公園のようなエリア。

**Key Functions:**

- Library & Community: 学びの場（図書館機能）と交流の場（コミュセン）が一体となった空間。
- Walkable Hub: 丘の上の高低差を活かし、歩いて気持ちの良い遊歩道を整備。



## 未来のために空間再編：一つの可能性としての「学校移転」

- 盈科小学校は島内最古（現在築68年）、校舎裏が急傾斜地域であり、現在地での建て替えは困難。
- 子どもたちのことを最優先に考え、より充実した教育・生活環境を提供できる場所へ「発展的移転」を検討。

注）これは決定事項ではなく、一つの有力な選択肢（可能性）です。



提案：より良い場所へ移転・新築



# 学校が移転した場合は、跡地が「みんなの家（居場所）」に生まれ変わる



**Method: Park-PFI**（公募設置管理 制度）を活用し、民間の資金でおしゃれで便利な施設を創出。

- **Book & Cafe:** コーヒーを飲みながら本が読めるリラックス空間。
- **Kids Space:** 雨の日でも子どもたちが遊べる屋内広場。
- **Green Promenades:** 散歩したくなる緑の遊歩道。

## 最先端技術×リハビリで「健康寿命」を延ばす



パートナー企業連携



医療DX／予防医療



先進リハビリ機能

小学校跡地は「健康」をテーマとした拠点施設としても機能します。  
データを活用した予防医療・未病ケアにより、高齢者が安心して  
暮らせるまちづくりを目指します。

## 全国で広がるPark-PFI「公園×交流」の成功事例



富岩運河環水公園（富山県）：  
公園×カフェ  
（世界一美しいスタバ）



武雄市図書館（佐賀県）：  
図書館×蔦屋書店



オガール紫波（岩手県）：  
官民連携のモデル

**壱岐でも、これらの事例に負けない、島ならではの「居心地の良い場所」をつくります。**

# 誰もがスムーズに移動できる「回遊デザイン」

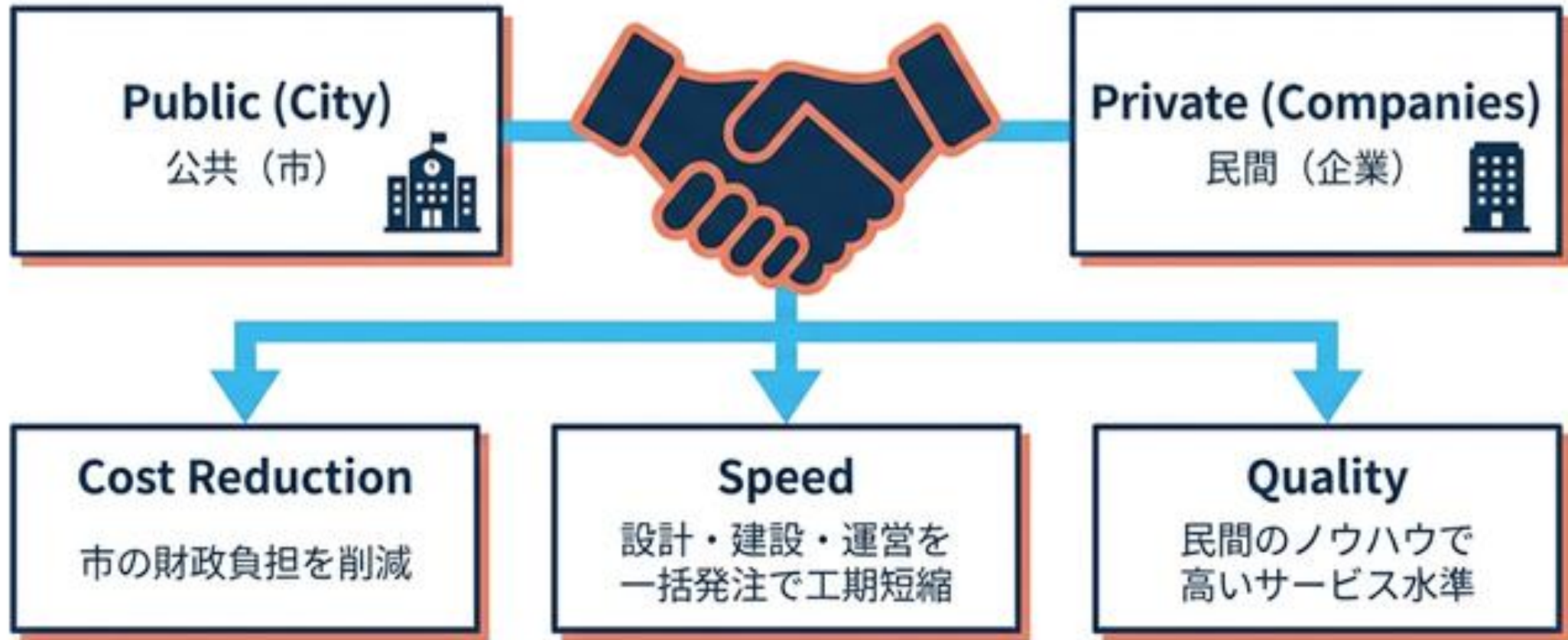


• Walkable Paths: 高低差をカバーし、川沿いや緑の中を歩ける快適な歩行空間。



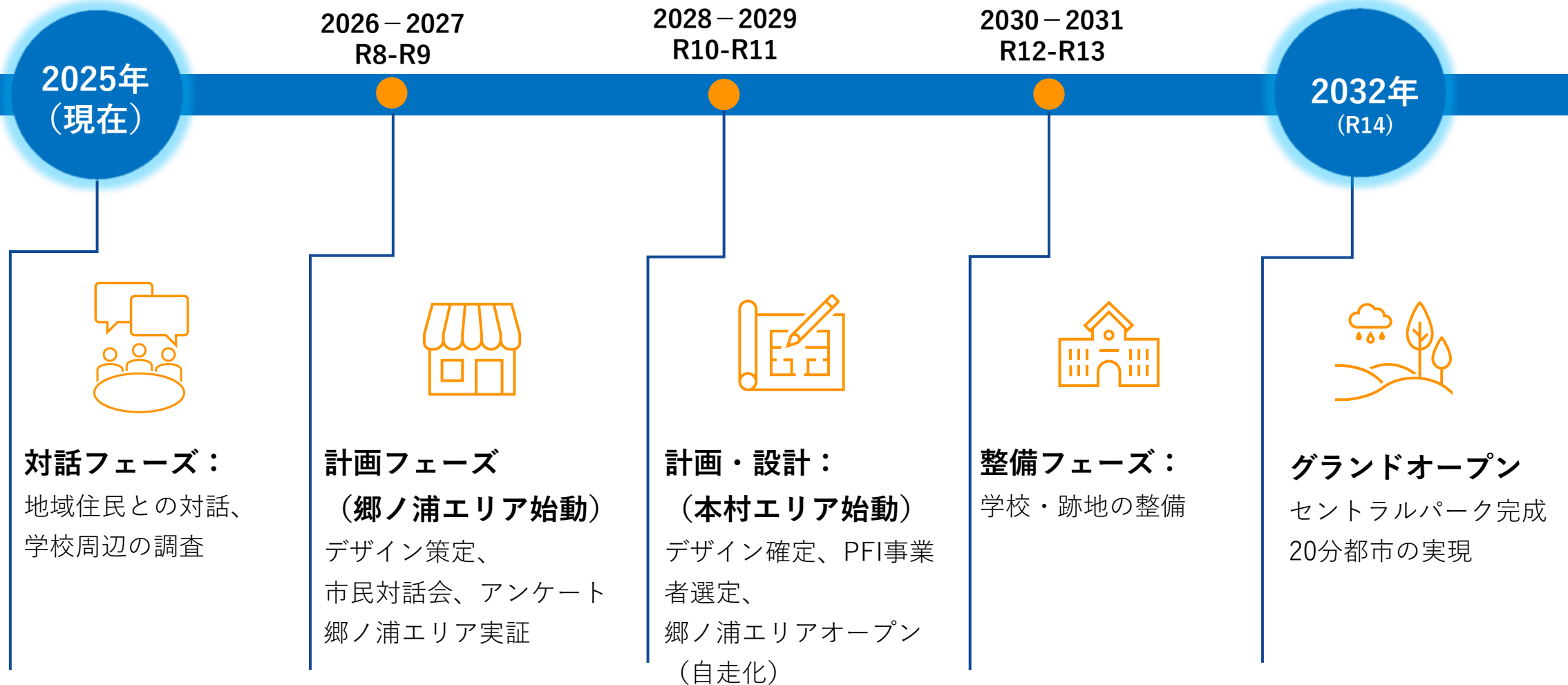
• Circular Bus / MaaS: 2つのエリアを循環するバスや、AIオンデマンド交通の導入。

# 民間の力を活かす「PFI」で、賢く・素早くつくる



エンゲージメントパートナーとの連携によりPFIを実施

# 完成に向けたロードマップ（2025－2032）



あなたの声で、この計画は完成します。

今回ご提示した学校移転やパーク構想は、あくまで「健幸なまち」をつくるための提案（一つの可能性）です。



- 「こんな場所がほしい」「ここが心配」…皆様の声をぜひお聞かせください。
- 今年度は、アンケートや対話会を複数回予定しています。
- 一緒に、次世代に誇れる郷ノ浦をつくりましょう。